

## Grove Dub -小石川ハウス alley-



『Grove Dub - 小石川ハウス alley-』では、参加型設計手法における運営段階での住民参加を想定し、施工後、住民自らが状況によって空間を可変させて使える作品を、実際に小石川（東京都文京区）にて設計及び自主施工をおこなった。このプロジェクトを通じ、周辺住民同士のつながりをつくり、コミュニティが育つきっかけを提案する。

### ■目的

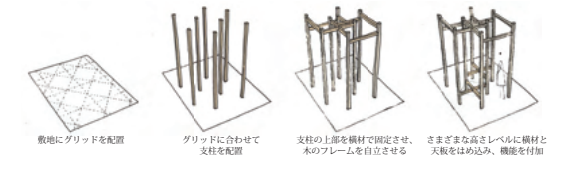
参加型建築設計において、住民参加がおこなわれる建築段階や、住民の参加方法はさまざまあるが、本プロジェクトでは建築設計手法における運営段階での住民参加を想定し、施工後、住民自らが状況によって空間を可変させて使える小建築作品の設計及び自主施工をおこなった。近年、地域のコミュニティ形成や維持が難しくなっているなか、小建築作品が、周辺住民同士のつながりをつくり、コミュニティが育つきっかけとなることを目指している。また、本プロジェクトでは、参加型建築設計及びまちづくりにおける建築家の在り方も考察している。Grove Dubを通して、水谷研究室が今後も継続的に地域に関わり、住民参加を前提としたまちづくりへの働きかけをおこなってことで、研究室が「地域の建築家」となる可能性を提示している。

### ■敷地

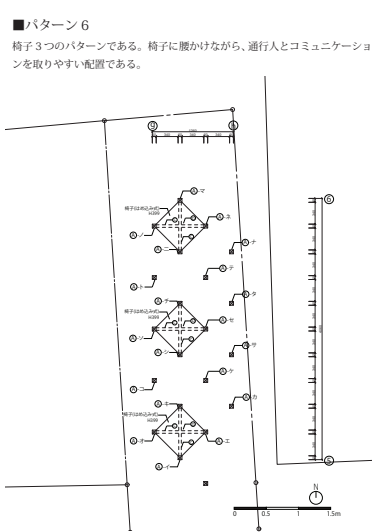
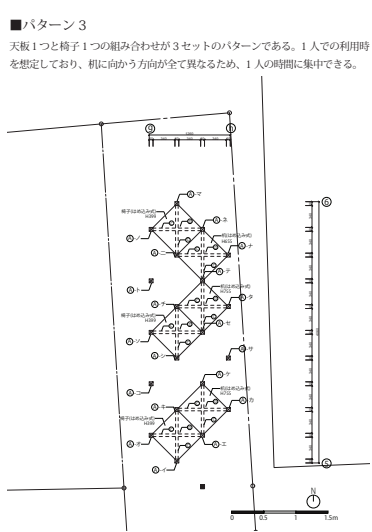
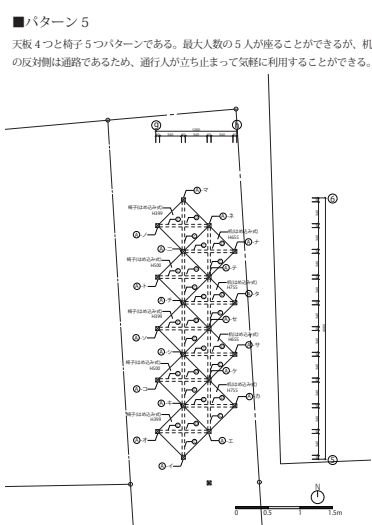
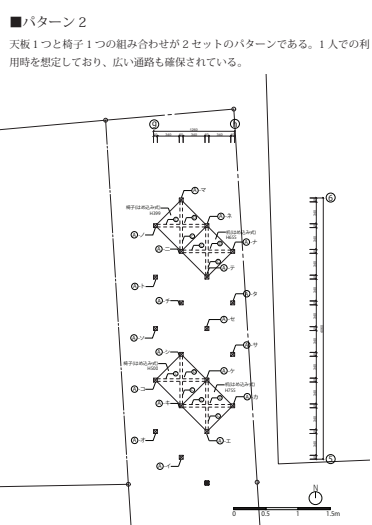
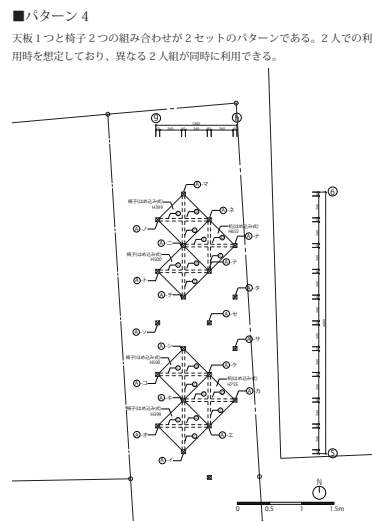
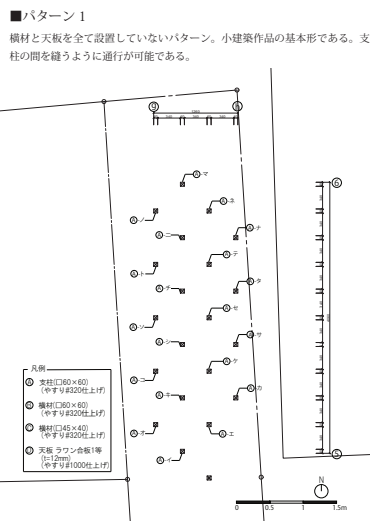
敷地は後楽園駅から徒歩5分、東京都文京区小石川の低層住宅密集地に立つ築60年ほどの木造2階建て住居と敷地内通路。住居の大部分は水谷俊博建築設計事務所がリノベーション（『Freeze Frame - 小石川ハウス』2022年1月竣工）をしており、本件では、リノベーションをおこなっていない住居1階の1室（赤色箇所）と敷地内通路（緑色箇所）に計画をおこなう。敷地内通路は、低層住宅密集地であるがゆえに、幅4m以上道路に接道させるための通路空間であるため、仮設とする。また、敷地内通路は車が通ることのできない路地となっており、周辺住民が日常的に歩いて通行利用する空間である。

### ■計画概要

低層住宅密集地のオアシスのように、利用者にやすらぎを与え、また、人々が集まりとどまることのできる空間を提案する。敷地にグリッド状に柱を配置し、柱の上部を横材で固定することで、木枠フレームを自立させる。自立させた木枠フレームのなかに、さまざまな高さレベル（H:766～399mm）に横材と天板をはめ込むことで、机や椅子の機能がうまれる。施工後に利用者が目的に応じて、自由にレイアウトをかえられることで、使う人に合わせることができ柔軟性をもった空間となる。











Grove Dub  
- 小石川ハウス alley -  
: 玄関前通路計画

「Grove Dub- 小石川ハウス alley-」と「The Grove- 小石川ハウス別棟-」は同じ仕込みを持つ小規模作品を設置した。玄関前通路の作品は、「Grove Dub- 小石川ハウス alley-」と「The Grove- 小石川ハウス別棟-」をつなぐ役割を果たす。小石川ハウスの外観に沿うようなかたちの作品にすることで、通行を妨げず、かつ、ベンチを通して、住民が交流できる場となる。



「The Grove- 小石川ハウス別棟-」と玄関前通路のつながり



ベンチが住民の交流の場となる

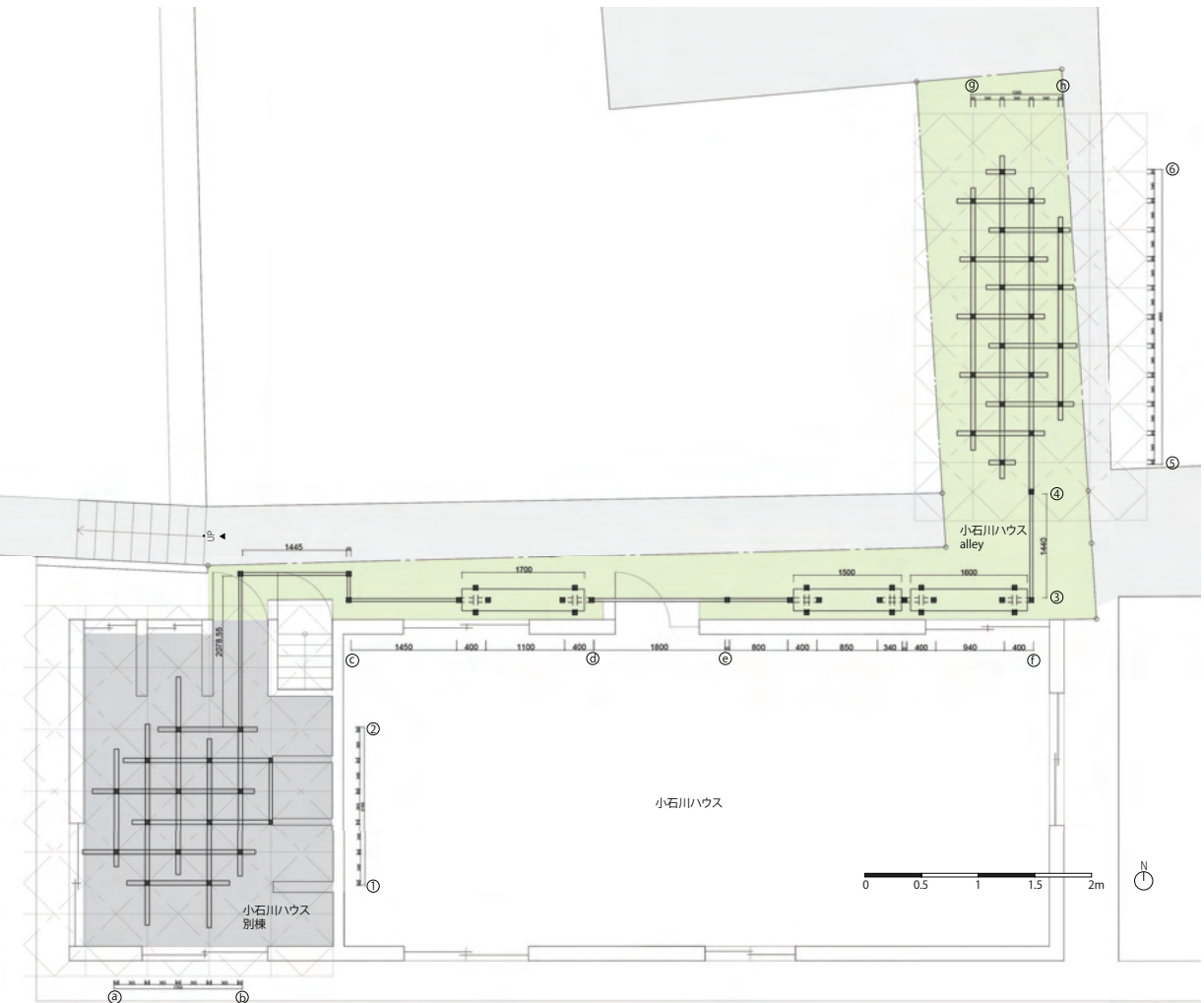


大通りからのアプローチ

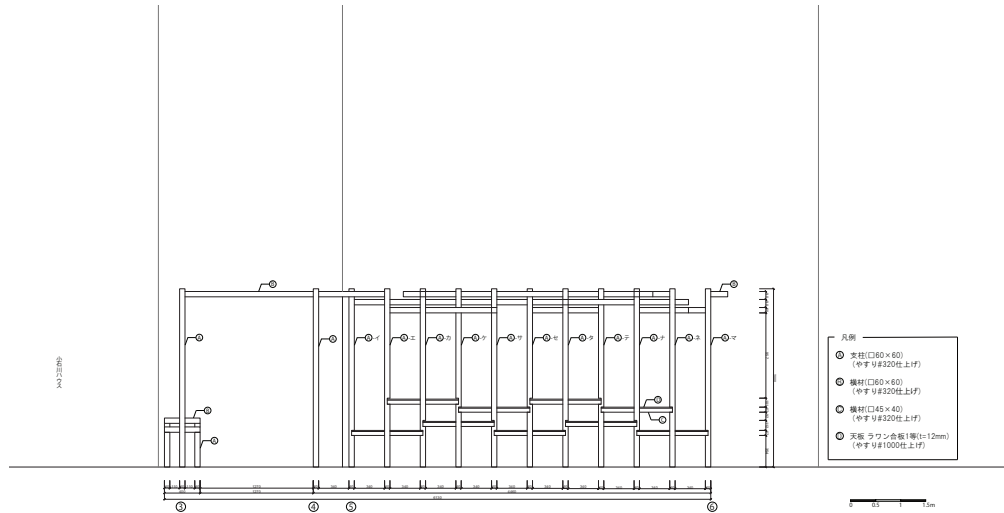


■「Grove Dub-小石川ハウスalley」「The Grove-小石川ハウス別棟」全体平面図

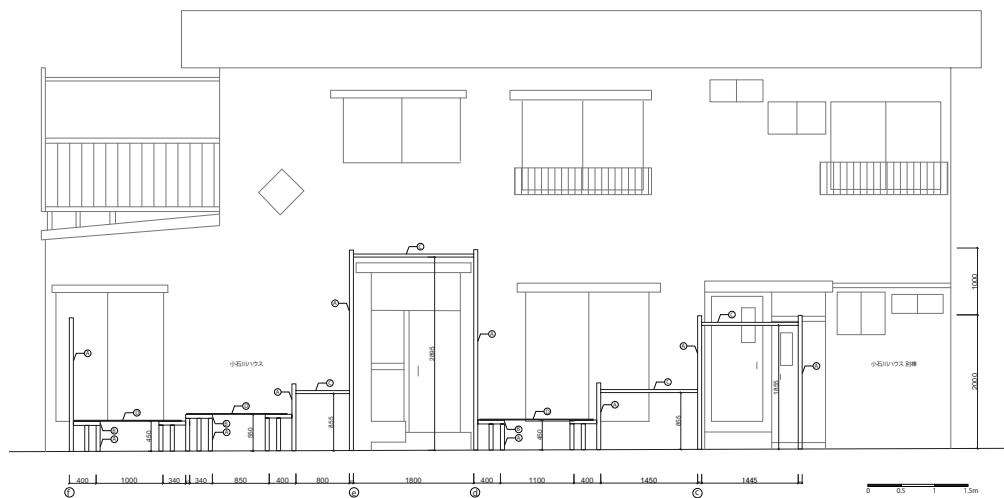
敷地内通路は、低層住宅密集地であるがゆえに、幅4m以上道路に接道させるための通路空間であるため、「Grove Dub-小石川ハウスalley」は仮設とした。「Grove Dub-小石川ハウスalley」と同時に「The Grove-小石川ハウス別棟」も設計・施工しており、「The Grove-小石川ハウス別棟」は存続の計画である。建物と地域のつながりをつくるため、室内と敷地内通路には同じ仕組みをもつ小建築作品を設置し、玄関前通路の作品は2つの作品を繋ぐ役割を果たしている。



■敷地内通路：東立面図



■敷地内通路（玄関前通路）：北立面図



■「The Grove-小石川ハウス別棟」

「The Grove-小石川ハウス別棟」は「Grove Dub-小石川ハウスalley」と同じ仕組みを持つ小建築作品である。すなわち、小建築作品は、周辺住民が集まる人数や目的に応じて、シンプルな木のフレームのなかで、さまざまな高さレベル(766～399mm)に横材と天板をはめ込む(椅子やテーブルとして機能)ことで、平面のレイアウトを自由に変えることができる。



■接合部詳細：はめ込み式の椅子と机  
はめ込み式の椅子と机は、支柱の欠け取りに十字削り付いた横材をはめ込み、天板をのせることで、釘やビスを使わずに固定できるかたちとした。容易に取り付け・外しを可能とすることで、施工後に使う人の目的に合わせて自由にレイアウトを変えることができる。

